

平成 19 年 2 月 21 日

各 位

不動産投信発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 雅之

(コード番号：8981)

投資信託委託業者名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 雅之

問合せ先 取締役・管理本部長

鈴木 博之

TEL. 03-6439-0333

2007 年 1 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2007 年 1 月度の月次総売上げ並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

項目/年月	客室稼働率 (%)	ADR(円)	RevPAR(円)	売上高(百万円)
神戸メリケンパークオリエンタルホテル	62.0%	14,762	9,153	375
新浦安オリエンタルホテル	78.2%	14,963	11,697	489
なんばオリエンタルホテル	89.4%	9,710	8,683	160
ホテル日航アリビラ	70.5%	21,837	15,391	385

2007 年 1 月売上に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門においては、客室改装による売り止めの為、稼働率は前年を下回りましたが、平日用宿泊プランの販売状況が好調に推移した事に加え、引き続き実施している高単価での販売政策により ADR をあげることに成功し、売上げは前年同月比を大幅に上回る結果となりました。

しかしながら、婚礼部門の売上げにおいては、1 人当たりの単価は前年より確実にアップしているものの、絶対的な件数は対前年比で減少が続いております。

新浦安オリエンタルホテルについて

前月に引き続き、年始の休暇に合わせた東京ディズニーリゾートへの来場者数が好調に推移する中、オフィシャル、パートナーホテルを問わず全体的な宿泊者数も好調に推移しました。各ホテル間での宿泊客の取り込み競争が激化する中、新浦安オリエンタルホテルにおいては、ベビーズスイートの販売が好調に推移した事により稼働率、ADR 共に伸ばしました。また、顧客のニーズ・競合ホテルの戦略の研究

等を通して、マーケットに即したきめの細かい販売戦略を立てることにより、全ての部門が前年同月と比較し売上げを伸ばした事で、ホテル全体の売上げを大きく押し上げました。

なんばオリエンタルホテルについて

大阪市内の主要ホテルにおける稼働率は、前年同月と比較し若干上昇する結果で推移しました。なんばオリエンタルホテルにおいては、前年後半より実施しているレベニュー・マネージメントの効果が顕著に表れ、高稼働日には積極的な高単価販売を展開、低需要日には稼働率を重視した価格設定を行ったことで、ADR、稼働率ともにアップを図ることができました。

ホテル日航アリビラについて

沖縄県発表の2007年1月の航空会社輸送実績はJAL、ANA、SKY3社合計で470,025人と対前年同月比+5.0%と前月に引き続き好調に推移しました。マーケット全体では、昨年同月と比較し稼働率に変化は無いものの、若干ADRを伸ばして来ております。ホテル日航アリビラにおいては、安価商品の設定を見送り、高単価商品の受注を拡大することによりADRを上昇させました。加えて前年同月と比較して高い稼働を確保できた事で宿泊部門の売上げアップに貢献しました。

宴会部門は前年同月の売上げを割ったものの、好調に推移した宿泊客の摂食により、レストラン及びバー部門の売上げは前年同月を上回りました。

注1) 上記のコメントは運用会社が貸借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

注2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

注3) ADR：平均客室販売単価(Average Daily Rate)をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計(サービス料を除きます。)を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。

注4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上(Revenue Per Available Room)をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。

注5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>